

ボランティア・市民活動情報誌

OITA

ぼらのたね

URL ☎ <http://www.coara.or.jp/~oitavoc/> E-mail ✉ oitavoc@fat.coara.or.jp

発行所

社会福祉法人 大分県社会福祉協議会
大分県ボランティア・市民活動センター
〒870-0907
大分市大津町2丁目1番41号

お問合せ先

TEL (097) 558-3373
FAX (097) 558-1296

2006 FEBRUARY

No. 3

Which?

3つの研修会を実施しました

あなたならどれに参加する？

県ボラでは12月に「ボランティアリーダー研修会」(2日)、「企業・団体の社会貢献・ボランティア活動研修会」(8日)、「災害ボランティアコーディネーター研修会」(12・13日)を開催し、師走の忙しい最中かつ平日にもかかわらず、のべ269名の方にご参加いただきました。心よりお礼申し上げます！今回のぼらのたねでは、参加できなかった方のために各研修会の担当者が内容をちょっぴりご紹介します。

This one?

1 ボランティアリーダー研修会

12月2日 県総合社会福祉会館 参加者86名



講師の菊池 修さん(写真中央)

今年のリーダー研修会は、講師として菊池 修さん(特定非営利活動法人えひめNPOセンター 代表理事)をお招きし、「グループマネジメント(運営管理)」について参加者全員でじっくり話し合い、考え、グループがさらに活気づき輝きを増すためのヒントやエッセンスを学びました。「気取らなくて身構えなくて眠くならなくて最高」という参加者からの感想もあったこの研修、お絵かきあり、ダンスあり、ディスカッションあり…と、講師の個性あふれるユニークな内容でした。

研修のご案内で「活動を活性化するためには?」「若返りを図るには?」…などのテーマについて重点的に研修を行うと書いており、講師から具体的な解決方法を聞けることを期待して参加した方も多かったと思いますが、終わってみて「あれ? 解答がなかった」。一体どういうことでしょうか? 各グループのリーダーに納得してもらえる具体的な解答は「ない」です。がっかりするのはまだ早いですよ! それはグループによって状況や求められているリーダー像が違うからで、一概には言えないからです。あえて言えば、みなさんが活動しているグループで話し合っただけで決めたことが「解答」です。

ではリーダー研修会より、グループ内で「解答」を導き出すためのヒントを少しだけ…

○グループ運営のポイントは「合意形成」。話し合いで参加者全員の発言はありますか? 反対意見を出さなくても、発言をしなかった人は決定事項に従いません! 全員が楽に意見を出せる方法を工夫してみましょう。
①一人一人の考えをカードに書く、②まず2人組で話し合い→4人→8人…という風に徐々に話し合う人数を増やしていく、③活動年数の長い人など「えらい人」が司会進行するのを避け新人さんにお任せしてみる、など試してみてもは?

○リーダーはボランティアコーディネーター的な役割を求められています。コーディネーターとは簡単に言うと「人・物・情報などをつなぐ人」。若いメンバーの加入を希望するリーダーさん、若いメンバーを募集するための情報発信はしていますか? 活動がマンネリ化しているグループのリーダーさん、現在の活動が楽しくなくなったなら新しい活動を探してみてもは? イヤイヤやっている時点でそろそろ潮時かも。がんばるあなたを待っている所はたくさんあります。

○メンバーのコミュニケーションスキルを高めるために、お互いのコミュニケーションの取り方を観察してみましょう。短所は自分で気づいていることが多いのですが、意外と長所は気がつきません! 長所を教えてあげてその人の「財産」とし、いいスキルを持っている人をどんどんマネしましょう。みんなが気持ちよく活動できますね。

県ボラや各市町村の社協は、がんばるリーダーさんの頼れるパートナーを目指しています。ボランティア活動などに関するご相談はお気軽にどうぞ。(担当 三浦)

大分県災害ボランティア コーディネーター研修会

12月12日・13日 県総合社会福祉会館 参加者のべ137名



グループワーク後の発表のようす

今回は、それぞれの被災地での検証結果から「減災」する(被害を少なくする)ための課題として挙げられている、被災地における災害前・救援・復旧活動等の「役割分担」に焦点をあてた研修会を企画しました。役割分担というと、行政、関係機関、社会福祉協議会(以下社協)、企業、資格・技術技能保有者、地域住民としての、という考え方が一般的ですが、行政や社協の職員、資格・技術技能保有者も家に帰れば地域住民。場合によっては居住地域での役割を担うこともあるでしょうし、被害が少ない地域であれば仕事を離れてボランティア活動を行うこともあると思われます。最近では、立場の違い(組織)人々が力を合わせて(協働)対応しなければ太刀打ちできないほど頻繁に災害が起こっており、被害も以前にくらべ甚大で、救援・復旧活動にたくさんの人力や物資等が必要になってきています。しかし、立場の違いの人々がそれぞれどのような組織・仕組みで動き、得意な活動は何かを知らなければ協働はできません。そこで、災害時に必要な活動につ

いて考え、どこがその活動を担うのが一番よいのか、災害が起こる前の取り組みはどのようにすればよいのか、これらを参加者のみなさんの共通認識にするための研修会を組立てました。

講師は桑原 英文さん(JPCom代表)と 石井 布紀子さん((有)コラボねっと代表)。お二人は、阪神淡路大震災から災害救援活動を行うとともに、行政と外部支援団体との調整、災害ボランティアセンター等の運営指導にも長年携わってこられました。また、行政や共同募金会などの依頼で被災地を検証するために現地に赴き、次に起こる災害に備えるための活動も行っています。あくまでも被災者中心の視点で物事をとらえ、さまざまな立場での活動についても詳しいので、今回は是非にとお願いしました。

今回の研修会を通じて多機関に所属する方がさまざまな課題について話し合い、それぞれの視点の違いを確認した上で、協働するきっかけができたように思います。今後もよりスムーズに協働できる研修会等を企画していくとともに、「減災」にむけて大分県での大きなネットワークにしていきたいと思っています。最後に、この多機関という難しい参加者設定に、参加者の疑問を拾い上げながら、即解決していこうと心を砕いてくださった講師お二人に、感謝の意を表したいと思います。(担当 村野)

■参加者のうちわけ

参 加 者	12日	13日
資格・技術技能保有者	23名	14名
県 行 政	18名	11名
市 町 村 行 政	12名	12名
社 協 (市 町 村 含)	26名	21名
合 計	79名	58名

数字で見る 特 集 記 事

大分県のボランティア人口 ただいま約40,000人

大分県内の社会福祉協議会で把握しているボランティア人口は年々増えています。4年前の平成14年度当時、ボランティア人口は3万6千人程度でしたが、平成17年度現在では4万人を超えています。

この背景は、少子高齢化の中で介護や子育てなどの福祉課題や環境問題などに取り組もうとする人、また特技を生かして社会に役立とうと考える人が増えてきたことによるものです。

グループの活動内容では、地域でのサロン活動や子育て支援活動が年々増えており、また福祉分野では友愛訪問(※1)や食事サービス、環境分野では環境美化活動や自然保護活動、特技を生かしたテクニ

カルボランティアの分野では音楽や芸能活動が引き続き活発です。

また、時代の要請に呼応して住民参加型在宅福祉サービス団体(有償ボランティア)も徐々に増え、現在52団体となっています。

今後、これらの活動はますます必要性が高まることから、活動の広がりや各種研修を通じてのレベルアップが求められています。

※1 友愛訪問とは高齢者・障害者への戸別訪問活動のことで、基本的には友だちのように、または隣人を気にかけるような訪問という意味です。

企業・団体の社会貢献・ボランティア活動研修会

12月8日 県社会福祉介護研修センター 参加者46名

講師に、川北 秀人さん(I I H O E:人と組織と地球のための国際研究所代表)を迎え、企業・団体、NPO等の参加者により、「企業・団体の社会貢献・ボランティア活動研修会」を開催しました。

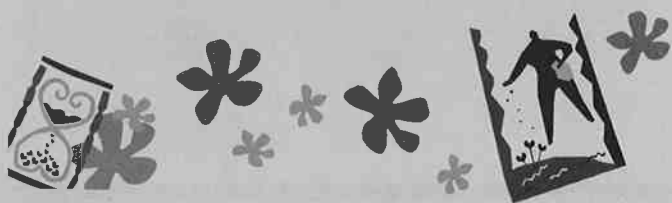
基調講演では、「企業の社会貢献、ボランティア活動への取り組み」と題して、地域に愛される企業であり続けるための社会貢献活動の必要性や現場主導の活動など多くの事例を紹介し、本業を活かした活動や本業以外にも様々な活動があることを説明されました。

講義の中ではCSR(※1)にも触れ、行事などの協力を求められたときだけに応えるのではなく、その地域で事業をし続けてこられたことへの感謝として地域の未来に貢献することが必要であるとし、(もちろん資金提供も重要なことですが)もっと企業の「顔」が見える活動として社員のボランティア活動への参加や、幹部職員が積極的に地域団体の役員などになり地域のことを一緒に考えていくことが必要だと話されました。

講義の後、川北さんの進行でワークショップを行い、企業・団体、NPOや社協職員が混在したグループをつくり、社会貢献活動に関する率直な意見を交わしていました。

参加者からは、いろいろな立場の人の話が聞け、「ボランティア活動への考え方が変わった」「本業とボランティアの関係が理解できた」「活動への取り組み方がわかってきた」「自分自身の意識が変わった」など、参加して良かったとの感想が寄せられ、次回は役員や上司も参加して欲しいとの声が上がっていました。しかし、地域の福祉の核となる「社協の存在が見えてこない」との意見もあり、企業との結びつきを深める必要性を考えさせられました。(担当 井出)

※1 CSR[Corporate Social Responsibility]とは、日本では一般的に「企業の社会的責任」と訳されています。CSRの取り組みの基本テーマは「環境」、「健康」、「安全」そして「事業を営む地域への責任と貢献」です。



ぼらのねた

ボランティア・市民活動に役立つマメ知識

二足のわらじを履き、自己実現する自分の姿を思い描いて ～CS大分 結成10周年～

「CSネットワーク」ってご存じですか？これは通信制のNHK学園専攻科(Community School)社会福祉コースの修了生と教職員で構成される、自由にゆるやかに、そして積極的に「もうひとつの生き方」の実践を目指す全国組織です。昨年、学習グループ・CS大分が結成10周年を迎えました。そこで、代表の馬場みさ子さんにお話を伺いました。

馬場さんがNHK学園を受講しようと思った十数年前は、将来「団塊世代」

が高齢化し4人に1人が高齢者という社会が来る、と頻りに報道されていました。まさに団塊世代である馬場さん。自分たちが迎える高齢社会とはどういうものなのか勉強したいと思っていた時に偶然入学案内を見つけました。

CS大分発足時の会員は4名。20名いた時もありましたが、現在は会員10名が普段それぞれの仕事やボランティア活動をしながら、年に数回、学習会や情報交換などを通して地域福祉の向上にむけて活動しています。馬場さんご自身も働きながら、学生時代やママさんバレーでの経験を生かしスペシャルオリンピックス日本・大分で知的発達障害



スペシャルオリンピックスの仲間と鍋を囲む馬場さん(左から2人目)

のあるアスリートにバレーボール指導や、在宅福祉サービス団体での「たすけあい活動」などで活躍中です。

馬場さんは「多くの人との出会いはいろんな気づきや考えさせられることなど、何かを得ることができます。生きていく上で自分に与えられた運命と向き合うためにも人との関わりはとても大切です。これまでNHK学園などで学び、働きながら実践してきましたが、これからも自己実現する自分の姿を思

い浮かべ、老いても活動を続けている自分自身を大切に思える人間になりたいと、最近特に思うようになりました。NHK学園で得た全国にいる友は10年経った今でも最大の宝物です」とお話ししてくれました。

いつもハツラツとしている馬場さん、10周年おめでとうございます！今後もコミュニティリーダーとしてのご活躍を期待しています。

次ページで平成18年度NHK学園専攻科の学生募集を掲載しています。

ボラけいじばん

■NHK学園高等学校専攻科

「社会福祉コース」平成18年度学生募集

社会福祉コース(2年制通信教育)は、これからの地域社会で活躍が期待されているボランティアリーダーの育成と介護の専門職である介護福祉士の養成を目的とし、福祉の理論はもとより、環境・生活・文化など市民として直面する地域の課題や人間の問題を総合的に学び、さらにボランティア体験学習や社会福祉実習を通じて福祉の持つ意味を実践的に学び取ることが可能です。

募集期間/平成18年2月1日~3月1日 ※必着
 入学選考/出願書類(作文)により選考
 出願資格/高等学校卒業以上(平成18年3月卒業見込含む)
 学費など/入学選考料3,000円、入学金20,000円
 授業料120,000円(年額)
 お問い合わせ、入学案内書(付願書)の請求は下記まで。
 入学案内書は県ボラにもあります。

〒186-8001
 東京都国立市富士見台2-36 NHK学園高等学校専攻科
 TEL.042-572-3151(代)
 URL <http://www.n-gaku.jp/wel>

■そろそろボランティア活動保険の更新時期です

「ボランティア活動保険」はボランティア活動中におこる様々な事故(傷害事故・賠償事故)からボランティアのみなさんを補償する保険です。

ボランティア活動保険は年度ごとの更新となっており、平成17年度に加入された方の補償期間は平成18年3月31日までです。3月下旬から平成18年度のボランティア活動保険の加入手続きを開始しますので、安心して充実した活動をするためにもぜひご加入ください。

加入の申し込み・お問い合わせは県ボラ、または市町村社会福祉協議会まで。

■TaKaRaハーモニストファンド 研究助成・活動助成

内容/日本の緑を構成する森林、木竹等の陸域の自然環境、または湖沼、河川等の水域の自然環境に関する実践的な研究・活動に対して助成。

対象/自然環境を守り、育てる活動または研究を実践する個人および団体。研究・活動主体の資格は不問。

助成件数/10件程度(助成金総額500万円前後)

応募締切/平成18年3月末日 必着

問い合わせ先/公益信託 TaKaRaハーモニストファンド事務局
 (TEL.075-211-5521 URL <http://www.takarashuzo.co.jp/environment/>)

収集 ボランティアさん いつもありがとう

使用済みテレホンカード、使用済み切手、書き損じハガキの収集、等にご協力いただいた皆さんをご紹介します。

- 岩田町静潮会 (敬称略)
- 大分県立看護科学大学テニスサークル
- (株)日産プリンス大分販売
- スポーツオーソリティ相模原店
- (社)大分県薬種商協会
- 日出町民のみなさん
- 杵築市立山浦小学校

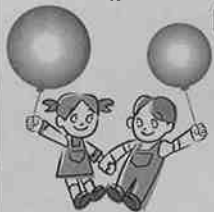


みなさんからいただいた書き損じハガキ・使用済みプリカは平成17年12月に大分県盲人協会「愛のともしび運動」に寄贈しました。ご協力ありがとうございました。

安心を支えます

ボランティア活動保険

ボランティア活動中のケガや賠償事故を幅広く補償!



特長

- 活動場所と自宅との往復途上の事故も補償
- 防災・災害のボランティア活動も補償
- ボランティア自身の食中毒や熱中症も補償
- 地震等天災によるケガも補償(天災タイプ加入の場合)

掛金 Aプラン...300円 Bプラン...500円 Cプラン...700円
天災急難補償タイプもあります。

ボランティア行事務用保険

ボランティア行事に参加中のケガや賠償事故を補償!

福祉サービス総合補償

ヘルパー・ケアマネジャー等の活動中のケガや賠償事故を補償!

送迎サービス補償

送迎サービス中の交通事故によるケガを補償!

お申込み、ご照会は、あなたの地域の社会福祉協議会へ

社会福祉法人 全国社会福祉協議会

この保険は、全国社会福祉協議会が保険会社と一緒に契約を行う団体契約です。

取扱代理店 > 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区麹町3丁目3番2号 新豊が岡ビル17F

TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763

<http://www.fukushihoken.co.jp>

<引受幹事会社> 日本興亜損害保険 株式会社



情報誌「ほらのたね」では、読者のみなさんからのご意見・ご感想、情報の提供などをお待ちしています。おたより・メールは「大分県ボランティア・市民活動センター ほらのたね係」までお送りください。

ボランティア・市民活動についてのご相談・お問合せは...

社会福祉法人 大分県社会福祉協議会 **大分県ボランティア・市民活動センター**

■開所時間

月曜日~金曜日 8:30~17:15
 〒870-0907 大分市大津町2丁目1番41号
 TEL(097)558-3373・FAX(097)558-1296

■ボランティア・市民活動ルーム開室時間

月曜日~土曜日 9:00~20:30
 日曜日、水曜日 9:00~17:00
 平日の17:00以降及び土、日、祭日は事前に予約

<http://www.coara.or.jp~oitavoc/> E-mail:oitavoc@fat.coara.or.jp

編集後記

ボランティアは自分の興味のある活動を選んで参加できることが特徴。でもやってみると活動に関わるうちに、実はその活動の抱える問題・課題は世の中全体的な問題・課題に繋がっていることに気がつく、という話を聞きました。これってとてもおもしろい!問題・課題が山積みな現代社会ですが、あなたの手はその「山」を崩す力を持っています。志をともしにする仲間はいませんか!!
 今年も一緒にがんばりましょう!!